外為どっとコム総研
外為トゥデイ
Daily
主要通貨の日々の推移をわかりやすく解説し、今後の見通しをお届けします。

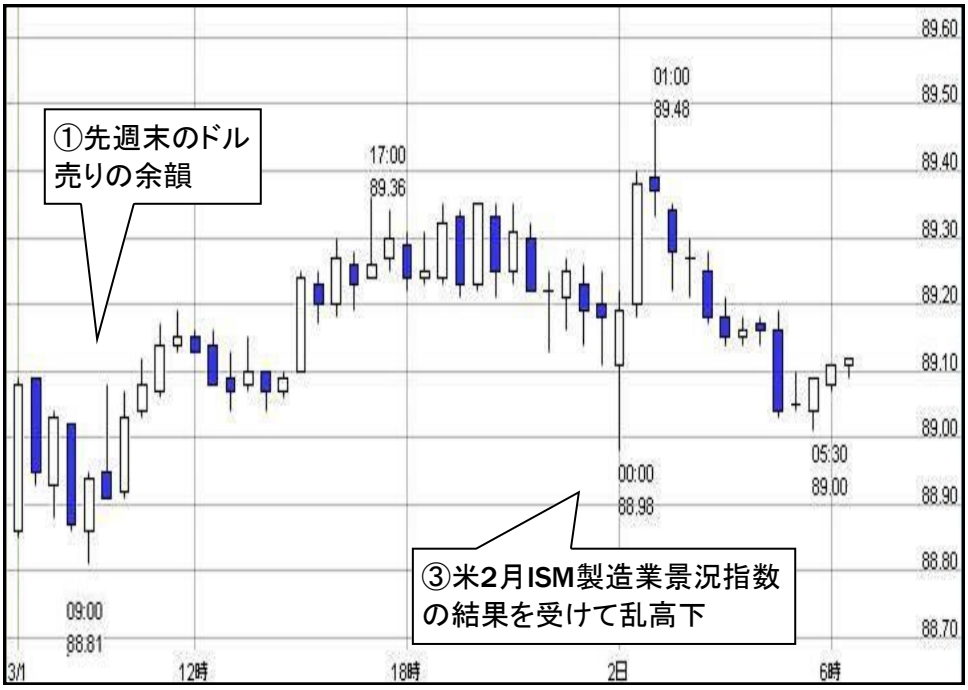
3月2日（火曜日）
ドル/円

雇用環境の改善なるか

1日（月）の主な推移

ダウ平均株価
10403.79ドル （+78.53ドル）
米長期金利（10年債利回り）
3.6079% （-0.0094%）
NY原油先物
78.70ドル （-0.96ドル）

チャート：30分足　1日（月）朝7時 ～ 2日（火）朝7時



※チャートは30分足　日本時間にて表示　※左表は終値ベース、( )は前日比
出所：外為どっとコム

①	取引開始直後は先週末の米経済指標の悪化や米国の利上げ期待の後退により、1日の安値圏での取引となった。しかしその後先週金曜の安値（88.74円）を抜けず、日経平均株価も底堅く推移したことで、ドル/円は買い戻された。
②	24時に発表された米2月ISM製造業景況指数は56.5と市場予想の58.0を下回ったため、発表直後にドル/円は88.98円まで下落した。しかし雇用のインデックスが56.1と前月の53.1よりも上昇しており、5日金曜の2月米雇用統計を前にした労働環境の改善期待によりドル/円は急反発を見せ、2日午前1時過ぎには1日高値となる89.48円まで上昇した。その後は89.40円台での上値の重さから軟調な推移となり、ドル/円は明け方には89.00円近辺へと下落した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

・米国経済の回復
・米長期金利の上昇
・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
・金融市場全体のドル売りムードの緩和
・日銀の追加資金供給
・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

・米金融規制案への懸念
・米国の超低金利政策の長期化観測
・米長期金利の下落
・米国経済の回復の鈍化
・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
・米財政赤字悪化懸念の高まり
・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.70-90.10円

本日、米国においては主だった材料がないため、主要国の株価や商品市況などに左右される展開が予想される。なお他国の経済指標では、豪準備銀行(RBA)の政策金利発表に注目したい。ドル/円への直接的な影響は限定的と見られるが、発表時間が東京市場の中でも取引の薄い時間のため、豪ドル/円が大きく動く場面ではドル/円もその動きに連動する展開が予想される。

テクニカル面では3営業日連続で88.70円付近で底打ちしており、短期的には自律反発も予想される。しかし上値は2営業日連続で89.50円で頭打ちとなっているため、このあたりを越えて行けるかがポイントと見られる。もし越えられれば、91.28円(2/3高値)を目指す動きにつながるかに注目したい。

本日及び翌朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示　時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
3/2(火)	12:30		(豪) RBAキャッシュターゲット	3.75%	4.00%
	19:00		(欧) 2月消費者物価指数・速報 [前年比]	+1.0%	+0.9%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではございませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。
Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com